

体・
・じ

ゆ・
・う

て・
・遊

ん・
・じ

や・
・お

／・



見る。



当り前のすざと、再発見。

魚捕り、筏遊び、山芋掘り……。かつては日本中のいたる所で見られた自然の中の遊び。それを、もう一度復活させようというのが、水俣を中心に活動を続けるグループ「もま」（土地の方言で「ムササビ」の意）の皆さんなのです。

「ふるさとの当り前のすざとを見直そう」これが、僕たちの活動の基本姿勢です。この三太郎・不知火地域は、黒潮の支流に乗って遠く南の島からやって来た海の民が、最初に上陸した土地なんじゃないか。そして、川に沿ってだんだんと九州山地の方に登って行ったのでは……。まったくの直感ですが、

触れる。



僕はそんな気がするんです。だから、文化にしても、ここにしかない物がたくさんある。そして、海・山・川の素晴らしい自然。これを見逃す手はないでしょう。観光資源の宝庫ですよ。こっただけを見ていたら、なかなかそれに気がきませんけどね。だから、北海道、ヨーロッパ、カナダ、マレーシア、いろんな所を見て回りました。また、外国の友人にもここを見に来てもらって、意見を求めました。そうすることで初めて、良い所、すごい所が見えてきたんです。」メンバーの一人は、熱心に語ってくれました。

なんにしかないものを。

「他の土地に行くと、よく、ここは交

通の便が悪いからとか、資源がないからという話を耳にします。マイナス面にばかり、目が向いているんですね。でも、交通の便が悪く、他の地域との交流が少なかったから、独自の文化が残っているのだし、資源だってないんじゃないかって、気付いていないだけなんですよ。あるものはある。ないものはない。それをはっきり自覚することからすべてが始まるんじゃないでしょうか。それに、何も自然や伝統文化ばかりじゃなく、『人』だって立派な資源だと思っんです。あの人がいるから、ここに来る。一緒に飲みたいから、遊びたいから、泊っていく。そういうのって、好きだなあ。

今は『行く』や『見る』だけのリゾ

食へる。

ートが多過ぎるような気がします。見る。聴く。触れる。食べる。香りを嗅ぐ。遊ぶなら、思いきり体中で楽しみたい。目かくして森に入り、手ざわりや香りで木の種類を当ててみたり、川にもぐって魚を捕えたり、旬の山菜を使っていろんな料理を工夫したり。それが僕たちのリゾートです。大型のリゾートプロジェクトは、もちろん必要。でも、日本中そればかりじゃちょっと寂しいでしょ。少し違ったタイプのリゾートもあっていいと思っんです。」